【別紙様式　8】

課題番号	個０９－１０１

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年３月３１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　成田　貴則　　印

所属・資格　松戸歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

唾液腺の水分泌におけるアクアポリン６の役割

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
成田　貴則	第５５回日本唾液腺学会学術大会	口腔乾燥症病態モデルとしてのNOD/DCID.E2f1-/-マウス	平成22年12月4日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可）否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-102

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年３月３１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　橋爪　智美　㊞

所属・資格　松戸歯学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

組換え型 *Salmonella* に対する腸管の抗原特異的 IgA 免疫応答誘導機序の解明

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
Tomomi Hashizume	14th internatinal congress of immunology	Antigen priming for mucosal IgA responses occurs solely in Peyer's patch after oral administration of recombinant *Salmonella*	2010/08/26

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Hashizume T.et.al.	International Journal of Oral-Medical Sciences ／ Mucosal Immunity in CD4-Deficient Mice: Direct Evidence for Mucosal IgA Antibody Responses	8・3	2010/3	
Hashizume T.et.al.	International Journal of Oral-Medical Sciences ／ Effect of *Porphyromonas gingivalis* on Human Umbilical Vein Endothelial Cells	8・3	2010/3	
Hashizume T.et.al	FEMS Immunology & Medical Microbiology／*Porphyromonas gingivalis* stimulates monocyte adhesion to human umbilical vein endothelial cells	Available on line 2011.2 Doi:10.1111/j	2011	

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-103

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２３　年　　３月　２２日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　　山　本　　仁　　印

所属・資格　　組織・発生・解剖学　・　専任講師

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究

注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

ラット横口蓋ヒダ発生過程に出現する細胞群に関する研究、特にメルケル細胞との関係

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Hitoshi Yamamoto et al.	Journal of Hard Tissue Biology /Alteration of the cytokeratin expression during palatine rugae development in mice	20/1	2011.03	The Hard Tissue Biology Network Association

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個０９－１０４

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年３月３１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　橋　爪　英　城　　㊞

所属・資格ホワイトデンタルグループ　葛飾院院長
（松戸歯学部　専任講師）

下記のとおり提出いたします。

１　種　目	（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

２　研究課題

培養ヒト歯髄細胞におけるプロテアーゼ受容体の発現と歯髄炎との関係

３　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

４　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月

５　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
橋爪　英城	日本歯内療法学会雑誌/重篤な急性化膿性根尖性歯周炎による下歯槽神経の知覚異常	31・2	2010・5	日本歯内療法学会
橋爪　英城	補綴臨床/修復治療の流れと診査・診断、歯内療法における診査・診断、歯内感法の実際、一口腔単位での抜歯基準を考える	43・6	2010・11	医歯薬出版

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-105

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年３月３１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　木本　統

所属・資格　松戸歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

上顎義歯装着が歯床下粘膜の知覚神経機能におよぼす影響を探る

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
Saeki H, Kimoto S, Komiyama O, Imamichi Y, Kobayashi K	The6th Biennial Meeting of Asian Academy of Prosthodontics	Pressure Characteristics of Impression for Palatal Dentures -Impression PUressure in Mandibular Bilateral Distal Extention Denture-	2009.4.25
Yamamoto S, Kimoto S, Saeki H, So K, Shinomiya M, Gunji A, Kobayashi K	The6th Biennial Meeting of Asian Academy of Prosthodontics	In Vitro Study on Changes in the Stress Behavior under Simulated Mucosa Exposed to Denture Bases with Different Resilient Denture Liners	2009.4.25
Ito N, Kimoto S, Kawai Y, Shima Y	88th IADR	Association between dentures and hypoesthesia of the maxillary alveolar	2010.7.17
伊藤菜那，木本統，小倉京子，佐伯啓行，郡司敦子，山本史朗，矢崎貴啓，河相安彦	第１１９回補綴学会学術大会	義歯装着は上顎顎堤粘膜の知覚鈍麻を引き起こすか	2010.6.11

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Kimoto S, Yamamoto S, Shinomiya M, Kawai Y	Randomized controlled trial to investigate how acrylic-based resilient liner affects on masticatory ability of complete denture wearers.	37(7)	2010.7	Willy-Blackwell (J Oral Rehabil)
Kimoto S, Kimoto K, Gunji A, Shinomiya M, Sawada T, Saita M, Kobayashi K	Randomized Controlled Trial to Investigate the Effects on Perceived Chewing Ability of Edentulous Patients Wearing Mandibular Complete Dentures with Acrylic-based Resilient Liner	23(2)	2010.3	Quintessence (Int J Prosthodont)
Pan S, Dagenais M, Thomason JM, Awad M, Emami E, Kimoto S, Wollin SD, Feine JS.	Does mandibular edentulous bone height affect prosthetic treatment success?	38(11)	2011.11	Elsevier (JoD)
Strietzel FP, Lafaurie GI, Bautista Mendoza GR, Alajbeg I, Pejda S, Vuletić L, Mantilla R, Falcão DP, Leal SC, Barreto Bezerra AC, Tran SD, Ménard HA, Kimoto S, Pan S, Zunt SL, Krushinski CA, Melilli D, Campisi G, Paderni C, Dolce S, Yepes JF, Lindh L, López Sánchez RM, Beiski BZ, Wolff A, Konttinen YT	Efficacy and safety of an intraoral electrostimulation device for xerostomia relief: A multicenter randomized trial	63(1)	2011.11	Arthritis Rheum (American College of Rheumatology)

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

＊課題番号	個 09-106

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　22　年　3　月　5　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　中　田　浩　史

所属・資格　松戸歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	(一般研究(個人研究)) ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

インプラント周囲における新生骨の形成およびモデリングに関与するミネラル成分の研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
中田浩史、林　幸男、寒河江登志朗、玉木大之、加藤仁夫	日本口腔インプラント学会	インプラント周囲に形成された新生骨の骨質変化－XPS 測定、偏光顕微鏡観察、およびFTIR イメージ測定－	2009 年 9 月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
中田浩史，沼田靖子，寒河江登志朗，玉木大之，加藤仁夫	日本口腔インプラント学会誌／ウサギを用いた新生骨の骨塩量に関わる骨質変化の観察： インプラント体周囲の新生骨と皮質骨の比較	22・3	2009 年 9 月	日本口腔インプラント学会

※ホームページ等での公開の (可)・否)　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09－107

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年３月３１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　増永　浩　　印

所属・資格　松戸歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	注：該当する種目を○で囲んでください。
（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	

2　研究課題

歯周治療後の患者管理の指標を決定するための免疫学的および細菌学的研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
増永浩、大橋顕二郎、他	第53回秋季日本歯周病学会学術大会	洗口法を用いた細菌検査を指標とした歯周基本治療の評価について	平成22年9月19日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
増永浩、傳亘、他	詩集基本治療の効果を向上させるためのモチベーションの方法　／　日本歯周病学会誌	52巻1号	2010年1月	日本歯周病学会
Hiroshi Masunaga, Wataru Tsutae, etc	Use of quantitative PCR to evaluate methods of bacteria sampling in periodontal / Journal of Oral Science	Vol. 52, No. 4	2010年10月	日本大学歯学部

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個０９－１０８

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年３月３１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　辻本　恭久　　印

所属・資格　松戸歯学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目　（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究　　注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

活性酸素による歯周組織の炎症カスケードと抑制システムの解明

3．研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
高橋知多香，松井智，和田陽子，小峯千明，三浦浩，高瀬俊彦，宇都宮忠彦，辻本恭久，松島潔	日本歯科保存学雑誌／根管洗浄クロラミンＴの機能の解析	５３・２	平成22年4月	日本歯科保存学会

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個０９－１０９

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年３月３１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　小　川　　京　　印

所属・資格　松戸歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

上下顎臼歯抜歯および粉状飼料下にて継代飼育したラットにおける顎骨への影響

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
小川　京	88th IADR	The effect of dietary restriction on mandibular growth in mice	H22. 7. 17

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個　09-110

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年３月３１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　成田　紀之　　印

所属・資格　松戸歯学部・　准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

精神と口腔

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
N Narita	European Academy of Craniomandibular Disorders/ Pain and Dysfunctions	Disruption of the cognitive process in sensory and motor functions of oral dysesthesia	2010.9.24-25
成田紀之	「医学・工学における逆問題とその周辺(2)」研究会	特別講演　ヒト顎口腔機能のシステム評価－その基礎と臨床	2010. 11.26

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
成田　紀之	統計数理研究所共同研究リポート258 医学・工学における逆問題とその周辺(2)／ 歯科・医学における顎口腔系の システム神経科学／神経歯科学の意義		2011.3.	統計数理研究所

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

現在，口腔の形状認知に関する検討を皮質活動から行なっている．これまでに，口腔は手指と違い，形状認知プロセスにおいて一次視覚野を介すること，そしてさらには，形状を誤って認識したときには，視覚野の活動性は強調されてくる．一方，前頭皮質においては，手指と口腔では有意に活動する皮質領域が異なるようで，興味が持たれるが，未だ解析中である。

今後，精神疾患を対象に同様の検討を行なって，口腔認知障害の様相を明らかとしたいと考えている．

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個　09-111

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２３　年　３　月　３１　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　腰　岡　政　二

所属・資格　生物資源科学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	（一般研究(個人研究)） ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

新規ジベレリン類の単離・同定とその生合成経路の解明

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
堀本大雅・窪田　聡・百瀬博文・腰岡政二	園芸学会平成23年度春季大会	ビワ未熟種子におけるジベレリンメタボロームの解明	平成２３年３月２０日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-112

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23　年　4　月　18　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　畠山　吉則　　印

所属・資格　生物資源科学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

農林害虫防除の観点から見た微胞子虫の系統関係に関する研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
畠山吉則・小田尚幸・角田遼平・井村善之・前田孚憲・TRAN VAN HAI・岩野秀俊	第 54 回日本応用動物昆虫学会	ベトナム産ハスモンヨトウから分離された微胞子虫株の系統分類学的解析	2010 年 3 月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Hatakeyama Y, Oda H, Tsunoda R, Imura Y, Maeda T, Xuan T T, Hai T V and Iwano H	Applied Entomology and Zoology/ Genome profiling implies a high genetic diversity in microsporidia isolated from the common cutworm, *Spodoptera litura* (Lepidoptera: Noctuidae) in Vietnam	46・3	2011年8月	Springer

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

＊課題番号	個 09-113

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23　年　3　月　3　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　村田浩一　印

所属・資格　生物資源科学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目　（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究　　注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

外来生物に随伴して国内侵入する病原微生物およびその環境リスク評価に関する研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
村田浩一	獣医学術学会年次大会（岐阜）	グリーンアノールとサルモネラ	2011 年 2 月
Sumiyama, D. 他 8 名	Asian Society of Zoo and Wildlife Medicine	Antimicrobaial resistance, Serotyping and pulse-field gel electrophoresis profiles of *Salmonella* spp. isolated from the green anoles (*Anolis carolinensis*), invasive alien species in the Ogasawara Islands, Japan.	2010 年 8 月
炭山大輔　他 7 名	第 150 回日本獣医学会学術集会	小笠原諸島父島の外来種グリーンアノールから分離されたサルモネラの血清型および PFGE 解析	2010 年 9 月
林田生野　他 6 名	第 16 回日本野生動物医学会	小笠原諸島母島の外来種グリーンアノールに認められたサルモネラ保菌と薬剤耐性	2010 年 9 月
佐々木絵美　他 4 名	第 149 回日本獣医学会学術集会	アフリカ産輸入鳥類の鳥マラリア原虫保有および国内侵入リスクについて	2010 年 3 月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
坪田敏男・村田浩一	獣医畜産新報/獣医学における保全医学の展開－生物多様性と野生動物感染症-	64・1	2011 年 1 月	文永堂
Kusuda, S.　他 9 名	Mammal Study/ Induced estrus in female small Asian mongooses (*Herpestes javanicus*) for the purpose of controlling invasive alien species in Okinawa Island.	35・3	2010 年 9 月	The Mammalogical Society of Japan
村田浩一　他 5 名	日本獣医寄生虫学会誌/環境リスク評価を目的とした侵略的外来種グリーンアノールの住血原虫保有に関する研究	8・2	2010 年 3 月	日本獣医寄生虫学会

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日
村田浩一	毎日新聞（朝刊）	2011 年 1 月 24 日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

1. 平成 21 年度科学研究費補助金〔挑戦的萌芽研究〕（分担、代表：石田 健）「固有種個体群の保全のための戦略的基礎研究、ルリカケスにおける挑戦」
2. 平成 21 年度科学研究費補助金〔挑戦的萌芽研究〕（分担、代表：遠藤秀紀）「動物園希少動物の遺体に関する三次元画像情報データの確立と形態機能解析理論の構築」
3. 平成 22 年度レギュラトリーサイエンス新技術開発事業「家畜の伝染病に関する野生動物疾病サーベイランスの検討」
4. 平成 22 年度三井物産環境基金研究助成〔萌芽研究〕（代表：村田浩一）「水鳥大量死の要因分析と生態系の健全化を目的とした水辺環境再生」

（他の研究への発展）

1. 平成 23 年度科学研究費補助金〔挑戦的萌芽研究〕（代表：村田浩一）「侵略的外来生物グリーンアノールのサルモネラ保菌に関する保全医学的研究」を申請中
2. 平成 23 年度科学研究費補助金〔若手研究（B)〕（分担、代表：炭山大輔）「アジア地域における鳥マラリア原虫の分布と分子系統に関する研究」を申請中
3. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）「野生鳥獣由来食肉の安全性確保に関する研究」を申請中

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-114

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23　年　4月　22日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　鈴木　美和　　印

所属・資格　生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題　　鯨類の抗利尿ホルモンに関する研究
－アルギニンバソプレッシンの分泌と作用の解明－

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
柾一史，鈴木美和，他	日本水産学会	ハンドウイルカの抗利尿ホルモンに関する生理学的研究	2010 年 3 月 29 日
鈴木美和	Hindgut Club Japan	イルカの水吸収	2010 年 12 月 4 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Suzuki M	Journal of Comparative Physiology B／Expression and localization of aquaporin-1 on the apical membrane of enterocyte in the small Intestine of bottlenose dolphin	180	2010/02	Springer

※ ホームページ等での公開の（可）・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

特になし

（外部資金の獲得）

特になし（H23.4.22 現在）

（他の研究への発展）

本研究により，鯨類のアルギニンバソプレッシン（AVP）が抗利尿作用を持たないことが判明した．これは他の哺乳類には見られない現象であり，現在，鯨類における AVP の役割の解明をすすめるとともに，AVP の他に抗利尿作用を示す物質の特定へと研究が発展している．

（その他）

【別紙様式　8】

＊課題番号	個 09-115

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　　２３年　　４月　１１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　佐藤　喜和　　印

所属・資格　生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	（一般研究(個人研究)） ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

ヒグマの背擦り行動の意義の解明と生息数モニタリングへの応用

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
佐藤喜和	日本大学生物資源科学部 平成 22 年度学術講演会	ヒグマの背擦り行動の意義の解明と生息数モニタリングへの応用	平成 22 年 12 月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可）・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

本研究による成果は，背擦り行動の誘引を個体数モニタリングに応用する可能性を示唆し，個体数平成 23 年度科学研究費基盤研究(B)「ヒグマ個体群のアトラクティブ・シンク現象解明とモニタリングおよび被害管理への応用」の研究計画における，市民参加による広域個体数モニタリングの検討に発展した。この研究計画は，平成 23 年に交付内定を受けた。

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-116

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23　年　4月　20日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　高　橋　令　二　印

所属・資格　生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	(一般研究(個人研究)) ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

アンモニア酸化菌におけるウレアーゼ発現機構の解明

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
日比野倫士、高橋令二、中川達功、佐藤一朗、徳山龍明	第 61 回日本生物工学会大会	酸性硫酸塩土壌から分離されたアンモニア酸化菌のウレアーゼの発現解析	平成 21 年 9 月
中村あずさ、高橋令二、松浦英之、中川達功、徳山龍明	日本土壌肥料学会 2010 年度北海道大会	茶栽培土壌におけるアンモニア酸化性バクテリアおよびアンモニア酸化性アーキアの群集構造解析	平成 22 年 9 月
中村　渉、高橋令二、中川達功、徳山龍明	第 62 回日本生物工学会大会	亜硝酸酸化菌の亜硝酸酸化還元酵素の発現解析	平成 22 年 10 月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Onodera, Y., T. Nakagawa, R. Takahashi, T. Tokuyama.	*Microbes Environments* / Seasonal change in vertical distribution of ammonia-oxidizing archaea and bacteria and their nitrification in temperate forest soil.	25(1)	平成 22 年 3 月	日本微生物生態学会
Matsutani, N., T. Nakagawa, K. Nakamura, R. Takahashi, K. Yoshihara and T. Tokuyama	*Microbes Environments* / Enrichment of a novel marine ammonia-oxidizing archaeon obtained from sand of an eelgrass zone	26(1)	平成 23 年 3 月	日本微生物生態学会

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

本研究成果を踏まえた一連の硝化細菌研究技術に対する評価を得、「土壌浄化法を用いた福島県会津坂下町の公共下水道処理施設における微生物調査」をテーマとして、産官学の共同研究に参画するに至り、平成 21 年度（平成 21 年 12 月）に特定非営利活動法人 日本土壌浄化法ネットワークより研究に対する寄付金を授与された。

（他の研究への発展）

本研究は、硝化のプロセスに関わる菌種であるアンモニア酸化菌を対象としており、硝化に関わるもう一方の微生物である亜硝酸酸化菌（バクテリア）、もしくはアンモニア酸化アーキアの研究においても本研究の知見は非常に重要で、不可欠なものである。また、上述の共同研究においても本研究の知見を活用した解析技術の応用が図られている。

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09－117

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２３年　４月　２０日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　野　口　　章　　印

所属・資格　生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目　（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究

注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

カドミウム汚染米産出水田土壌の迅速判定法の開発

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
野口章、田代絵吏、黒崎美穂、三井有穂、新町文絵、長谷川功	日本土壌肥料学会 2010 年度北海道大会	強還元土壌で生育する水稲の稔実障害	2010 年 9 月
佐藤伸子、野口章、長谷川功	2010 年度日本土壌肥料学会関東支部大会	植物のカドミウム吸収に及ぼすアーバスキュラー菌根菌接種の影響	2010 年 12 月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

当助成金研究結果に基づき申請した「平成２２年度科学研究費補助金（基盤研究（C））『植物生育に影響する要因を考慮した土壌中の重金属吸収性評価法の確立とその利用』」が採択され、研究継続・発展のための資金を獲得することができた。

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個０９－１１８

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２３年　４月　１４日

日　本　大　学　総　長　殿

氏　　名　山　谷　吉　樹

所属・資格　生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究) ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

わが国における愛玩動物における受動喫煙の現状把握

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
Yoshiki YAMAYA, , Tadashi SANO, Daisuke ITO, Shigeo OHBA, Masato KITAGAWA and Toshihiro WATARI	27th Annual Symposium of the Veterinary Comparative Respiratory Society	Clinical Findings from Barometric Whole-body Plethysmography Used as a Preanesthesia Respiratory Function Test in Dogs with Respiratory Diseases	平成２１年１０月
Yoshiki YAMAYA, Tadashi SANO, Daisuke ITO, Shigeo OHBA, Masato KITAGAWA, Mamiko SEKI and Toshihiro WATARI	28th Annual Symposium of the Veterinary Comparative Respiratory Society	Passive Smoke Exposure among Dogs and Cats with Lower Respiratory Diseases in Japan	平成２２年９月
山谷吉樹・佐野忠士・伊藤大介・北川勝人・大場茂夫・関真美子・亘敏広	第８１回獣医麻酔外科学会	麻酔前の呼吸機能検査として Barometric Whole Body Plethysmography を応用するための研究（装置の開発とその評価）	平成２３年１月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（財）喫煙化学研究財団　平成 23 年度研究助成金

「伴侶動物における受動喫煙の成立が呼吸機能や参加ストレス応答に及ぼす影響」

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09 - 119

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23 年　4 月　7 日

日 本 大 学 総 長　殿

氏　　名　加納 塁　印

所属・資格　生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種 目	(一般研究(個人研究)) ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

牛乳房炎の原因菌であるプロトテカの疫学調査

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Ito T, Kano R, Sobukawa H. et al	J. vet Med. Sci./Experimental Infection of Bovine Mammary Gland with Prototheca zopfii Genotype 1・	73・1	2011. 1	東京プレス
Sobukawa H, Kano R, Ito T. et al	Med. Mycol./In vitro susceptibility of *Prototheca zopfii* genotypes 1 and 2	49	2011. 2	Informa

※ホームページ等での公開の (可)・否)　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

平成 22 年度科学研究費補助金　基盤研究（C）
「プロトテカ乳房炎の迅速診断の確立と防除法の検討」課題番号 22580368

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個０９-１２０

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年４月４日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　松本　淳　　印

所属・資格　生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1　種　目　（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究　　注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

近交系マウスモデルを用いたエキノコックス症の病態解析と宿主抵抗性遺伝子特定の試み

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
中尾 亮、亀田弥生、孝口裕一、Yila Simon、松本 淳、ほか６名	第151回日本獣医学会学術集会	マウスにおける多包条虫シスト定着と原頭節発育に関与する宿主側遺伝的因子のQTL解析	平成23年3月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Matsumoto, J., Kouguchi, H., Oku, Y., and Yagi, K	Primary alveolar echinococcosis: Course of larval development and antibody responses in intermediate host rodents with different genetic backgrounds after oral infection with eggs of *Echinococcus multilocularis*	59 (3)	2010年9月	ELSEVIER

※ホームページ等での公開の（可）・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-121

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23　年　4　月　18　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　伊藤　大介　　印

所属・資格　生物資源科学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

嗅神経鞘細胞移植による脊髄再生療法のための経鼻内視鏡嗅粘膜採取法の検討

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
伊藤　大介	日本大学生物資源科学部学術講演会	嗅神経鞘細胞移植による脊髄再生療法のための経鼻内視鏡嗅粘膜採取法の検討	2010/12

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可）・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-122

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23 年　04 月　27 日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　佐野　忠士　印

所属・資格　生物資源科学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1　種　目　（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究　　注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

麻酔薬の生体免疫機能に及ぼす影響に関する臨床的研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
佐野忠士、手島健次、山谷吉樹、鯉江洋、浅野和之、亘敏広	日本獣医師会獣医学術学会年次大会（岐阜）	周術期管理におけるストレス関連性反応に対する基礎的検討	2011 年 2 月 12 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可）・否　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

本研究の内容を基礎とし、平成 22 年度 委託研究の獲得に至った。
・研究題目；吸入麻酔薬セボフロの犬における臨床応用に関する研究
・研究委託者；大日本住友製薬株式会社

（他の研究への発展）

本研究の内容を基礎とし、臨床データの蓄積を重ね、上記委託研究の獲得を得たことと併せ
現在、新たな項目を加えた応用研究を展開中である。

（その他）

本研究の内容に新たな臨床データの結果を加え、来る 2011 年 5 月 7 日より開催される
The Joint Congress of VRVC-AMAMs 2011.　で学会発表するに至った。（別紙参照）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-123

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23　年　4　月　22　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　須永　豊　

所属・資格　生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

クラシックブルースに存続する西アフリカの哲学的伝統“nommo”について

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
須永　豊	日本大学生物資源科学部学術講演会	ブルースは魔術なのか（ポスター発表）	平成 22 年 12 月 6 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
須永　豊	人文社会系研究紀要『人間科学研究』/アフリカ的宇宙論と nommo—Jahn(1961)—	第８号	2011年3月	日本大学生物資源科学部
須永　豊	国際文化表現研究/ブルースは魔術なのか—ブルースに存続するアフリカ哲学の伝統 nommo—	第７号	2011年3月	国際文化表現学会

※ホームページ等での公開の（可）否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-124

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２３年　４月　１３日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　益子　崇　　印

所属・資格　薬学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

アミロライド誘導体による神経細胞保護効果

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
吉田周平、益子　崇ら	日本薬学会第 131 年会	新規合成ビグアニド誘導体による ASIC1a 及び NMDAR に対する影響	2011/3/30
吉田周平、益子　崇ら	第 84 回日本薬理学会年会	Effects of novel synthesized biguanide derivatives with pyrazine on N-methyl-D-aspartate receptors and acid-sensing ion channel 1	2011/3/22

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）
該当なし。

（外部資金の獲得）
該当なし。

（他の研究への発展）
該当なし。

（その他）
該当なし。

【別紙様式　8】

課題番号	個０９－１２５

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23　年　4　月　25　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　石毛久美子　　印

所属・資格　薬学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	(一般研究(個人研究)) ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

GR103691 の細胞死保護作用に関する研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
石毛久美子、小菅康弘、伊藤芳久	XXVII CINP CONGRESS 2010 WORLD CONGRESS	Characterization of protective effects of GR103691 in ischemia-reperfusion injury models	2010 年 6 月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可)・否)　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

米国特許出願：2010 年 7 月 23 日（出願番号：12/864,395）
本申請課題は、GR103691 で見出された細胞死保護作用（日本特許出願：2008 年 1 月 25 日（出願番号：特願 2008-014835）の細胞死抑制メカニズム等を詳細に検討することが目的であった。本検討の結果、その保護作用が新規脳保護薬開発に結びつく可能性が高まったので、NUBIC を通して米国特許出願行った。

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

本検討により、GR103691 関連化合物に新規脳保護薬としての可能性が高まったので、化学系の教員の協力を得て、新規化合物を合成し、その細胞死保護作用をスクリーニング中であり、これまでに、数種の化合物に保護作用を見出している。これらの結果をさらに発展させるために、現在、JST の平成 23 年度の研究成果最適展開支援プログラム「A-STEP・フィージビリティスタディ【FS】ステージ　探索タイプ」に申請中である。

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-126

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２３年　４月　２５日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　小　菅　康　弘　　印

所属・資格　薬　学　部　・　助　教

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	~~一般研究(個人研究)~~ ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

小胞体ストレス関連因子 CHOP の発現調節機構の解明とその制御による治療法の開発

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
小菅康弘、長田暢弘、宮岸寛子、石毛久美子、伊藤芳久	第 12 回応用薬理シンポジウム	脳虚血・再灌流障害モデルマウス海馬における小胞体ストレス応答	平成 22 年 9 月 19 日
小菅康弘、谷口耶絵子、宮岸寛子、長田暢弘、今井徹、石毛久美子、伊藤芳久	第 84 回日本薬理学会年会	海馬切片培養系における小胞体ストレス誘発細胞死に対する Mithramycin の神経保護効果について	平成 23 年 3 月 23 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の　(可)・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

Yasuhiro Kosuge, Yaeko Taniguchi, Touru Imai, Kumiko Ishige, Yoshihisa Ito. Neuroprotective effect of mithramycin against endoplasmic reticulum stress-induced neurotoxicity in organotypic hippocampal slice cultures. *Neuropharmacology* (in press; accepted 5 April 2011)

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個０９－１２７

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２３年　４月２５日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　井手口　直子　印

所属・資格　帝京平成大学薬学部　准教授

下記のとおり提出いたします。

受領時（薬学部：専任講師）

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

小児患者、保護者と薬剤師の携帯電話を用いたコミュニケーションシステムの構築と評価

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）　なし

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
井手口直子	第4回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会ランチョンセミナー	患者さんにとって薬局が価値ある場であるために―双方向コミュニケーションの構築―	2011年3月13日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
井手口直子	井手口直子　月刊薬事 患者への服薬指導の実際―小児へのアプローチ―	Ｖｏｌ．52 Ｎｏ5 ｐｐ 67-72	2010　年 5月	じほう

※ホームページ等での公開の　(可)・否　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

なし

（外部資金の獲得）

なし

（他の研究への発展）

戸田健，尾崎信耶，井手口直子，高木 彰子，山本 直美，鳥居 伸吾，宮木智子，南部恵子，池田恵子，
"服薬支援のための患者・薬剤師間インタラクティブコミュニケー ションシステムの実証実験
第70回ヒューマンインタフェース学会研究会　Vol.12, No.12, pp43-52,

戸田健，尾崎信耶，井手口直子，宮木智子，南部恵子，池田恵子
"ユーザーエクスペリエンスを考慮した服薬支援インタラクティブコミュニケーションシステムの開発，"
ヒューマンインタフェース学会論文誌．　Vol.12, No.3, pp.209-218,2010年8月

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-128

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23　年　4　月　25　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　鈴　木　豊　史　　印

所属・資格　薬学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究) ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

血液脳関門におけるアミノ酸輸送に及ぼす脳虚血/再灌流障害の影響

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
大室　綾，鈴木豊史，他４名	第 53 回日本薬学会関東支部大会（城西大）	脳血管障害時におけるグルコースの血液脳関門取り込み輸送の変化[C03]	平成 21 年 10 月 3 日
大室　綾，鈴木豊史，他４名	日本薬学会第 130 年会（岡山）	マウス中大脳動脈閉塞-再灌流時におけるグルコースの血液脳関門取り込み輸送の解析[28CD-pm01]	平成 22 年 3 月 28 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

な　し

（外部資金の獲得）

な　し

（他の研究への発展）

な　し

（その他）

な　し

【別紙様式　８】

課題番号	個０９－１２９

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２３　年　４　月　２１　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　宮本　葵　　印

所属・資格　薬学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	(一般研究(個人研究)) ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

新規電解化学発光物質の基礎検討

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
今井加奈、宮本葵、内倉和雄	日本薬学会第 130 年会	新規電解化学発光物質の基礎検討	2010 年 3 月 29 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Aoi Miyamoto, Kana Imai, Kazuo Uchikura	Development of Flow Injection Analysis using Sodium 9,10-Diphenylanthracene-2-sulfonate as an Electrogenerated Chemiluminescence Reagent	投稿中		Analytical Sciences

※ホームページ等での公開の（㊀・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）
なし

（外部資金の獲得）
なし

（他の研究への発展）
なし

（その他）
なし

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-130

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　23　年　4 月 19 日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　小山　由美　　印

所属・資格　薬学部　助手

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

リスク／ベネフィットバランスに基づいたホルモン補充療法のための基礎的研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
小山　由美、松本　宜明	第 21 回日本大学薬学部学術講演会	女性ホルモンモニタリングの確立を目的とした基礎的検討	2010 年 11 月 6 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
なし				

※ホームページ等での公開の（可）・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日
なし		

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量
なし			

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）
なし

（外部資金の獲得）

なし

（他の研究への発展）
なし

（その他）

なし

【別紙様式　8】

課題番号	個０９－１３１

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２３　年　　３月　　４日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　真　野　一　雄　　印

所属・資格　通信教育部・教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目　（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究　　注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

英国 15 世紀書簡集 Paston Letters における言語の統語的研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
真野　一雄	研究紀要／Reflexive Verbs in the *Paston Letters* (2)	24 号	23 年 3 月	日本大学通信教育部通信教育研究所

※ホームページ等での公開の（○可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個０９－１３２

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２３　年　３　月　３１　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　猪　野　恵　也　　印

所属・資格　通信教育部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

James Joyce の作品群における間テクスト性について

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
猪野恵也	日本大学通信教育部『研究紀要』 /A Study of 'Nausicaa' in Ulysses(1922)	第 24 号	平成23年3月	日本大学通信教育部通信教育研究所

※ホームページ等での公開の（可）・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個 09-133

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 05 月 31 日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　ORSINI Philippe　　印

所属・資格　グローバル・ビジネス研究科・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目　（一般研究(個人研究)）／　一般研究(共同研究)　／　総合研究

注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

Globalization, Regional Communities and Food Business

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
ORSINI Philippe	日本フード・システム学会	フランスの食料品小売業界：構造と新展開	2009 年 6 月 21 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
ORSINI Philippe	ORSINI Philippe／日本大学ビジネス・リサーチ／Global Convergence in Grocery Retail	7	2010 年３月	日本大学

※ホームページ等での公開の（可）・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	個09-134

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成23年 4 月22日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　舛廣　善和

所属・資格　生物資源科学部　・　専任講師

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

蛋白質療法に用いる細胞膜透過性有用タンパク質発現系の確立とその分解抑制機構の開発

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・　研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
舛廣善和、荒川貴史、小島裕久、花澤重正	日本分子生物学会	Degradation mechanisms of transcription factor DP-1 (TFDP-1) via ubiquitin-proteasome pathway	2009 年 12 月 11 日
舛廣善和、荒川貴史、小島裕久、花澤重正	日本農芸化学会	タンパク質安定化発現モチーフ DP-1 Stabilon の性状解析	2010 年 3 月 28 日
小島裕久、舛廣善和、花澤重正	日本農芸化学会	iPS 細胞産生系に係わる Yamanaka 因子の安定的発現系の構築	2010 年 3 月 28 日
舛廣善和、郡尚子、中山隆太郎、小島裕久、花澤重正	日本分子生物学会	細胞膜透過性 TIPE2 の大腸菌による発現系の構築	2010 年 12 月 8 日
小島裕久、大穂満隆、和田菜々枝、舛廣善和、花澤重正	日本分子生物学会	細胞膜透過性山中因子の安定的発現系の構築	2010 年 12 月 8 日
舛廣善和、稲垣みずき、白戸智恵、小島裕久、花澤重正	日本大学幹細胞研究フォーラム	細胞膜透過性レチノイン酸受容体(RARα)による白血病細胞の顆粒球への分化誘導	2011 年 1 月 22 日
小島裕久、大穂満隆、舛廣善和、花澤重正	日本大学幹細胞研究フォーラム	タンパク質誘導のiPS細胞産生に必要な細胞膜透過性山中因子の恒常的発現系の開発	2011 年 1 月 22 日
大穂満隆、小島裕久、舛廣善和、花澤重正	日本大学幹細胞研究フォーラム	大腸菌による細胞膜透過性 c-Myc 発現系の構築	2011 年 1 月 22 日
舛廣善和、田口顕広、小島裕久、花澤重正	日本農芸化学会	尿素変性タンパク質の透析におけるリフォールディング効率と等電点の関係	2011 年 3 月 26 日
小島裕久、大穂満隆、和田菜々枝、舛廣善和、花澤重正	日本農芸化学会	分解耐性型細胞膜透過性山中因子の恒常的発現系の構築	2011 年 3 月 26 日
吉田尚弘、舛廣善和、花澤重正、他	日本農芸化学会	細胞膜透過性 SOCS2 蛋白質による IGF-1 シグナル抑制系の開発	2011 年 3 月 26 日
大穂満隆、小島裕久、舛廣善和、花澤重正	日本農芸化学会	細胞膜透過性 c-Myc の大腸菌発現系の確立	2011 年 3 月 26 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
舛廣善和、山本祐司、古庄律、五十嵐庸、和田政裕、真野博、佐藤隆史、目崎喜弘、大森一二、柳澤純、藤村亜紀子、村山明子、大家祥平、高田伊知郎、加藤久典、大竹史明、武山健一、関根圭輔、北川浩史、伊藤紗弥、金美善、福田亨、長岡功、藤山沙理、山本陽子、松本高広，加藤茂明（編集）	「現代栄養学を理解するための分子生物学入門」	第６章「核内のイベント」担当	2010 年 4 月	光生館
Arakawa T, **Masuhiro Y**, Kamiya Y, Kojima H, Hanazawa S.	Biochem Biophys Res Commun./ Identification of significant regions of transcription factor DP-1 (TFDP-1) involved in stability/instability of the protein.	397 巻・2 号	2010年6月	ELSEVIER

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

［成果物８－２］

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）
産業財産権の名称；タンパク質療法や細胞の分化/未分化制御、抗体療法に応用可能な細胞内でのタンパク質の安定化を可能にする産生アミノ酸からなるモチーフの確立
発明者；舛廣善和、花澤重正
権利者；日本大学
産業財産権の種類、番号；特許・PCT/JP2009/070081、N002P09005
出願年月日；2009 年 11 月 20 日
国内・外国の別；国際

（外部資金の獲得）
1.　科学研究費補助金若手(A)、日本学術振興会、研究期間 2009-2010 年度、資金額；総額 2379 万円（直接経費 1830 万円）、課題名「癌抑制のための腫瘍関連因子活性調節系の確立」

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	高個09－001

注：課題番号を記入してください。

平成２１年度　学術研究助成金成果物報告書

平成 23 年 5 月 20 日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　松崎 祐介　印

所属・資格　豊山女子高等学校　教諭

下記のとおり提出いたします。

1　種 目	一般研究(個人研究) ／ 一般研究(共同研究) ／ 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

認知の程度と言語形式－英語の ING 動名詞・分詞使用の認知的基盤－

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
松崎 祐介	日本大学英文学会 英語学シンポジウム	Accusative with Infinitive 再考 ― 意味からのアプローチ ―	H21 年 10 月 10 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
松崎 祐介	論文「認知の程度と言語形式」 『教育研究紀要』	3	H22 年 3 月	日本大学豊山女子 高等学校

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

（他の研究への発展）

「認知の程度と言語形式」の第 1 章の内容は応用言語学（教科指導法）の研究への発展を含みます。今後英語教育関係における研究発表の機会があった場合にはご報告いたします。

（その他）

平成 23 年度中に学内外の学会で追加発表を予定しております。
発表後，速やかにご報告いたします。